

# STOP! 市バス路線廃止・減便!

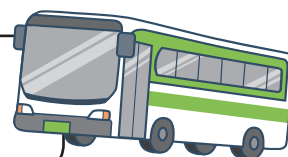
神戸市交通局は、来年4月実施で、「しあわせの村エリア」の65系統、66系統、120系統の市バス路線を大幅減便・廃止しようとしています。市は「黒字路線も含め効率化」と言いますが、混雑するバスでは、高齢の方や障がいのある方、ベビーカーの親子連れなどに大きな負担となり、乗りたくても乗れなくなります。すでに今年4月には64系統が37便もの減便がされています。

日本共産党市会議員団は、これまでも市バスの廃止・減便に反対し、「利用者の声を聞いた見直し」をと求めてきました。本会議で市交通局長は「利用者からの意見も取り入れたい」と答えています。より多くのみなさんの声を神戸市に届けることが大切です。

来年4月の廃止・減便の撤回、この4月に減便された路線の復活を求めましょう。

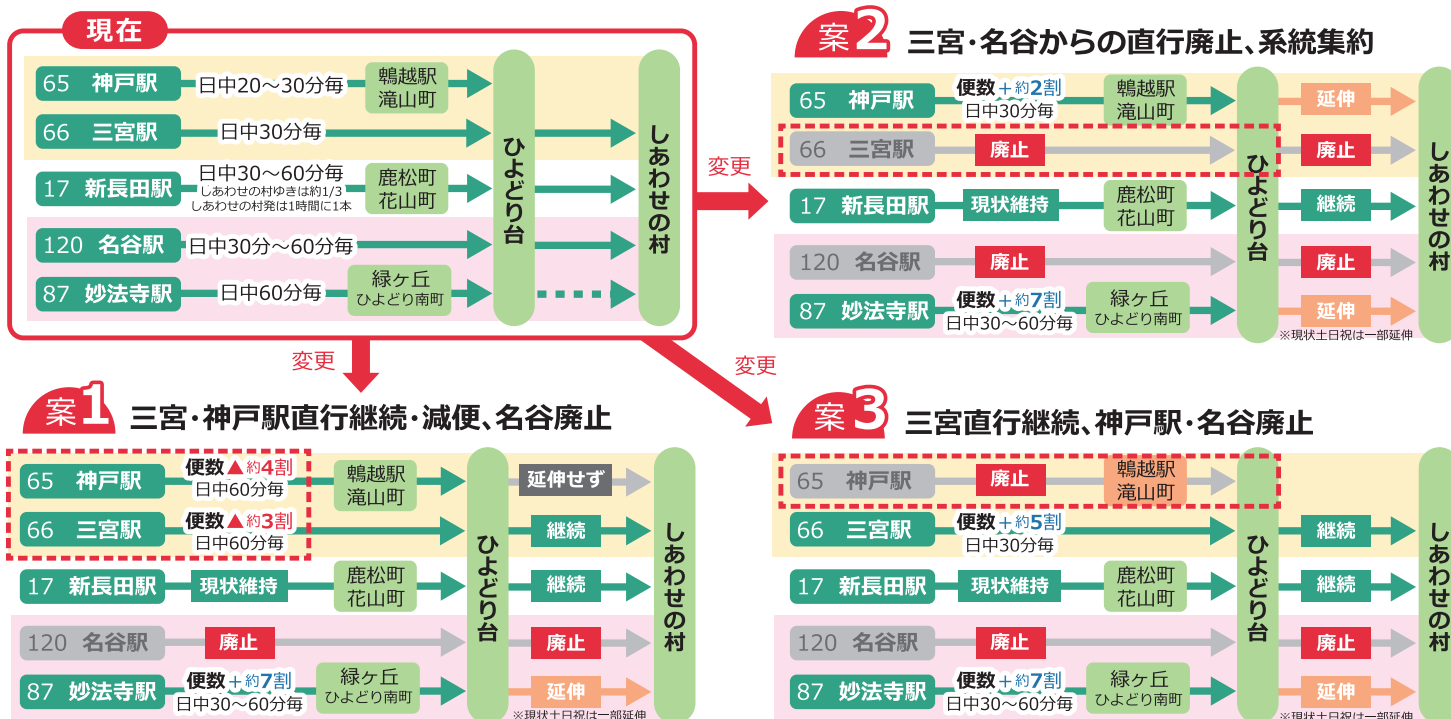


折込のアンケートと裏面の署名にご協力いただける方は、同封の返信用封筒に切手を貼らずご返信ください。



## しあわせの村エリア

2027年4月実施予定 便数については未定



いつまでも安心して元気に暮らせるまちに！

# 市バス路線の継続と充実を！

## 署名にご協力をお願いします



神戸市バスは4月ダイヤ改正で大きな減便をしました。8月からは須磨エリアで大幅な路線廃止、来年はしあわせの村行きのバスの廃止も計画されています。利用者からは「バスがなくなれば病院や区役所に行けなくなる」「子どもが登校に使うバスまで減便される」「しあわせの村行きが無くなると障がい者施設に利用者が通えなくなる」「混雑すると高齢者や赤ちゃん連れはますます乗りづらい」「街づくりをすすめてきた自治会の思いを無視している」などの声がでています。

市バスは24年10月に運賃値上げをおこない黒字に転じました。にもかかわらず久元市長は、補助金を削減して減便を進めています。市バスの経営が困難なときこそ、神戸市が応援して、運転手の処遇改善をすすめながら、買い物や通院など生活に欠かせない市バス路線の維持・充実することを求め、以下要望します。

久元喜造 神戸市長 宛

### 【統一要望】 市バスの減便・廃止はやめること

北  
区  
要  
望

- ① 2027年4月実施の65系統、66系統、120系統の廃止・減便はやめ、存続させること
- ② 65系統は、しあわせの村まで延伸すること
- ③ 64系統の減便は、元に戻すこと

名 前	住 所